

令和6年度実施「生理、生理用品に関するアンケート調査」の結果について

延岡市教育委員会では、令和6年度に、児童生徒の月経による身体の不調や月経に関する悩み、生理用品使用の実態等を把握し、学校生活での指導に生かすため、中学校（延岡市立中・義務教育学校16校）の女子生徒及び小学校実証実験協力校（延岡市立小学校1校）の4年生から6年生までの女子児童に対してアンケートを実施しました。

その調査結果の概要をお知らせします。

1 中学校（延岡市立中・義務教育学校16校） アンケート調査結果（概要）

(1) 実施時期 令和6年11月1日～11月30日

(2) 実施生徒数 1005名（回答率72.3%）

(3) 生徒アンケート結果

【生理による学校生活への影響】

- 生理による腹痛や体のだるさなどの身体の不調で学校を欠席または早退・遅刻したことが「ある」生徒は29.4%でした。
- 生理前や生理中に感じる症状により困ったことが「ある」生徒は64.7%でした。
「ある」と回答した生徒のうち、困ったことがある主な症状について、
「腹痛」(92.5%)
「イライラ」(66.8%)
「眠くなる」(55.7%)などと回答していました。（複数回答可の質問です。）
- 学校生活で困る場面は、
「水泳の授業」(78.3%)
「授業中（体育以外）」(65.2%)
「体育の授業」(58.2%)などがありました。（複数回答可の質問です。）

【生理用品に関する実態】

- 学校で生理用品が無くて（無くなって）困った経験が「ある」生徒は51.1%でした。
「ある」と回答した生徒のうち、困った時の対処法について、
「友達から借りた（もらった）」(80.8%)
「トイレットペーパーやティッシュペーパーで代用した」(34.2%)
「同じものを付けたままにした」(33.6%)
「保健室で借りた（もらった）」(26.7%)などと回答していました。（複数回答可の質問です。）

【学校での生理用品の配備】

- 保健室以外の場所に生理用品が「あったほうがよい」と考える生徒は82.6%でした。
「あったほうがよい」と回答した生徒のうち、設置を希望する場所について、
89.9%が「トイレの個室」と回答していました。
また、利用したい時を、
「急に生理になったとき」(31.0%)
「持ってくるのを忘れたとき」(25.2%)などと回答していました。（複数回答可の質問です。）

2 実証実験協力校（延岡市立小学校1校）アンケート調査結果（概要）

(1) 実証実験内容

時期： 3 か月間（12 月～2 月）

対象： 4～6 年生の女子児童 170 名

場所： 各学年が使用するトイレの個室に生理用品を配置

(2) 実証実験結果

- 実証期間中の生理用品の使用数は合計 256 個（週平均 21.3 個）でした。
- 生理用品の減りは、5 年生が多く、次いで 6 年生の順でした。4 年生はほとんど使用していませんでした。

(3) 児童アンケート結果

- 配置された生理用品を「使った」児童は 20.0%でした。
- 「使った」と回答した児童のうち、その理由を、
「急に生理がきたから」（69.7%）
「家から持ってくるのを忘れた」（33.3%）
「興味があったから」（9.1%）などと回答していました。（複数回答可の質問です。）
- 今後、学校に生理用品を置いてほしい場所は、
「トイレの個室内」（53.8%）
「保健室」（23.5%）
「トイレの洗面台・手洗い場などの場所」（16.8%）などがありました。（複数回答可の質問です。）

(4) 教職員アンケート結果

- 実証実験後の生理用品の配置場所としてふさわしいと考えるのは、
「トイレの個室」（47.4%）
「従来通り保健室」（34.2%）
「トイレの共用部分」（18.4%）でした。
- 「保健室」を選んだ理由には、保健指導や相談を一緒に受けられるなどの教育的な視点についての意見がありました。また、実証実験の配置については、本当に必要な人だけが利用したかどうかはわからないという意見もありました。

おわりに

今回の調査から、児童生徒によっては、生理により心身の不調や不安を抱えながら学校生活を送っているという実態があることが分かりました。

延岡市教育委員会としましては、この結果を受け、保健室が担う専門性や役割を維持しつつ、学校、家庭、地域とともに考えながら、児童生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりに今後も取り組んでまいります。